

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。

研究分野は都市社会学、生活構造論、公共社会学。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの協同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマである。グローバル化とローカル化が同時に進行する現在、私たちの生活の拠点としての地域社会、ともに生きていく拠り所となる協同性や公共性が改めて問われている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための課題を明らかにしたい。具体的な研究テーマとして、地域における公共交通や河川整備、特にそこでの住民参加、また、東日本大震災による避難/移住者の生活過程について実証的な調査研究を続けている。

理論的な側面では、都市社会におけるこれまでの生活問題研究に学びながら、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

田代英美・佐藤繁美・菊池義昭「石井記念友愛社の事業展開と地域におけるネットワーク形成——児嶋草次郎理事長へのインタビュー記録から——」『石井十次資料館研究紀要』第18号、pp.219-234、社会福祉法人石井記念友愛社発行、2017年8月。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究（2）——埼京線・SR・TXと北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第二次報告」『日本都市学会年報』VOL.50、pp.361-365、2017年5月。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究（1）——埼京線・埼玉高速鉄道・TXと北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第一次報告」『日本都市学会年報』VOL.49、pp.315-319、2016年5月。

田代英美「遠方避難における生活再建と地域社会の課題」『社会分析』43号、pp.25-43、2016年3月。

田代英美・佐藤繁美『公共社会学入門 公共性の社会学 テキスト』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2017年4月。

②その他最近の業績

<学会発表>

田代英美「交通インパクトと都市・地域社会の構造変動（5）——九州新幹線沿線地域の事例分析」日本社会学会第90回大会（東京大学）、2017年11月5日。

田代英美「平常化する地域社会の见えない避難」、開催校企画テーマセッション『「フクシマ」をひらく——原発事故をめぐる社会の現在と未来』報告者、日本社会学会第89回大会（九州大学）、2016年10月9日。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究（2）」日本都市学会第63回大会（岡崎市）、「報告要旨集」pp.54-55、2016年10月30日。

田代英美・伊東啓太郎・田中優太・山下絢子・揚野慎一郎・伊藤拓「“かわまちづくり”への参加に関わる住民の行動・意識要因——福岡県田川市における調査から」日本景観生態学会第25回全国大会（九州工業大学）、「講演要旨集」p.77、2015年6月6日。

<日独国際シンポジウム（福岡県立大学特別公開講座）>

ウルリヒ・ボルスドルフ・田代英美（訳・編）「新たな地域文化を目指して——ユネスコ・世界遺産ツォルフェルアインの挑戦——」、福岡県立大学、2017年10月14日。

<教育実践報告>

田代英美・佐野麻由子「公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践 2016」、『福

岡山県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、pp.81-92、2017年2月。
田代英美・佐野麻由子「公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、pp.119-131、2016年2月。

<書評>

田代英美「書評 関西学院大学災害復興制度研究所他編著『原発避難白書』（2015、人文書院、241頁。）」、『社会分析』44号、pp.145-147、2017年4月。

<コラム>

田代英美「研究室めぐり 福岡県立大学人間社会学部公共社会学科」『西日本社会学会ニュース』No.154、p.6、2017年11月17日。

③過去の主要業績

田代英美「遠方個別避難における『被災』、『避難』、『生活再建』の構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、pp.45-56、2015年2月。

田代英美「東日本大震災による遠方への避難の諸要因と生活再建期における課題」、『西日本社会学会年報』第11号、pp.63-75、2013年3月。

田代英美「地方公共交通の再編とコミュニティの情報提供機能」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、pp.65-77、2013年1月。

田代英美・佐藤繁美編『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、総ページ数77、2011年3月。

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、pp.51-70、2010年3月。

田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14～16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)（2））研究成果報告書、2005年6月。

3. 外部研究資金

科学研究費基盤研究（B）「交通インパクトの社会的効果に関する研究——量と質とビジュアルの混合研究法——」平成26年度～平成29年度、研究分担者。

科学研究費基盤研究（C）「平常化する地域社会の見えない避難——広域避難者にとって生活再建とは何か」平成29年度～平成31年度、研究代表者。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会、日本都市学会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>

公共性の社会学・2単位・1年・前期、社会学概論・2単位・1年・後期、社会調査実習・2単位・2年・通年、環境社会学・2単位・2・3年・後期、地域社会分析法A（地域と生活）・2単位・3年・前期、地域社会学特講・2単位・3年、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

田川市地域公共交通会議委員、田川市経営評価改革推進委員会委員、田川市産業振興会議委員、田川の宝！彦山川を創る会会長、添田町地域公共交通会議委員

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等